



女子陸上部主将は
ド変態マゾメス犬に
調教されました

基本CG6枚
差分 71枚

● REC

「新入生の皆さんはじめまして。
女子陸上部主将の佳苗れん（かなえ れん）です。
我が校の女子陸上部の今年の目標は
全国大会出場！
前年はあと一步のところで悔しい思いをしたけど
その気持ちをバネに部員一同気を引き締めて
練習に励んでいます。」



はつきりいいいます。やる気のない子は
入部しないでくれ。
いきなりきついことを言ってごめんなさい。
でも私達はそれくらい本気なんです。
私達と一緒に陸上で青春を過ごしてくれる
熱い子を待つてるよ！」

「はいカット！」

カメラを構えていた男が言う。
今撮っていたのは新入生たちに
見せる部活動紹介の動画だった。

「れん。なかなか良いじゃん。

これ新入生のやつら観たらまだお前のことを
王子様扱いするファンが増えちまうぜ」

男は金髪色黒でいかにも不良という外見だった。

またその男の後ろにも3〜4人の不良たちが
たむろしている。



「そうですか？ありがとうございます」
さっきまで凛々しかったれんが不良に
深々と頭を下げる

「じゃあ、テイク2行ってみようか。
今度はお前の本性さらけだしバージョンだ」
「はい。」

そういわれると、れんは一度深呼吸して
またカメラの前で話した



● REC

「新入生のマンコ共、そしておちんぼ様方！
はじめまして。女子陸上部主将兼
クソドマゾ肉便器の佳苗れんです♡」

我が校の女子陸上部は全国大会出場を
目指していますが
主将である私はそんな目標ほっぽりだして
毎日マンコとアナル調教に勤しんでいます♡」



● REC

「一日4時間のオナニーや、不良様のお手をお借りしてケツ百叩き♡
日々、無様な生き物になれるように練習に励んでいます。」

はつきりいいいます。20cm以下のおちんぼは近寄ってこないでください。
いきなりきついこと言ってごめんなさい。
でも私を観ながらのチンコキは大歓迎です。
私の貴重な青春を台無しにしてくれる
極悪おちんぼ様を待っています♡♡♡!」



「はいカット！いいね」

男たちがニタニタと笑いながられんをみつめる

「説明会でどっちのバージョンを流すかは

俺達の気分で決める。ドマゾバージョン

ながしちまつたら今年の女子陸上部には

新入生一人も入らないだろうなあ」



「ああ、そんな事になったら

陸上部の〇〇の方に顔向けできません」

「じゃあクソ真面目な方流すか？」

おまえはそれでいいのか？」

「何も知らない新入生たち全員にクソドマゾの
本性を知られると想うと

想像しただけでイっちゃいそうです」

「結局どっちだよWWW」

「おい、この動画だけじゃまいち

状況がわからねえだろ。

まずはおめえがなんで

こんなクソマゾになっちゃったのか説明しろ」

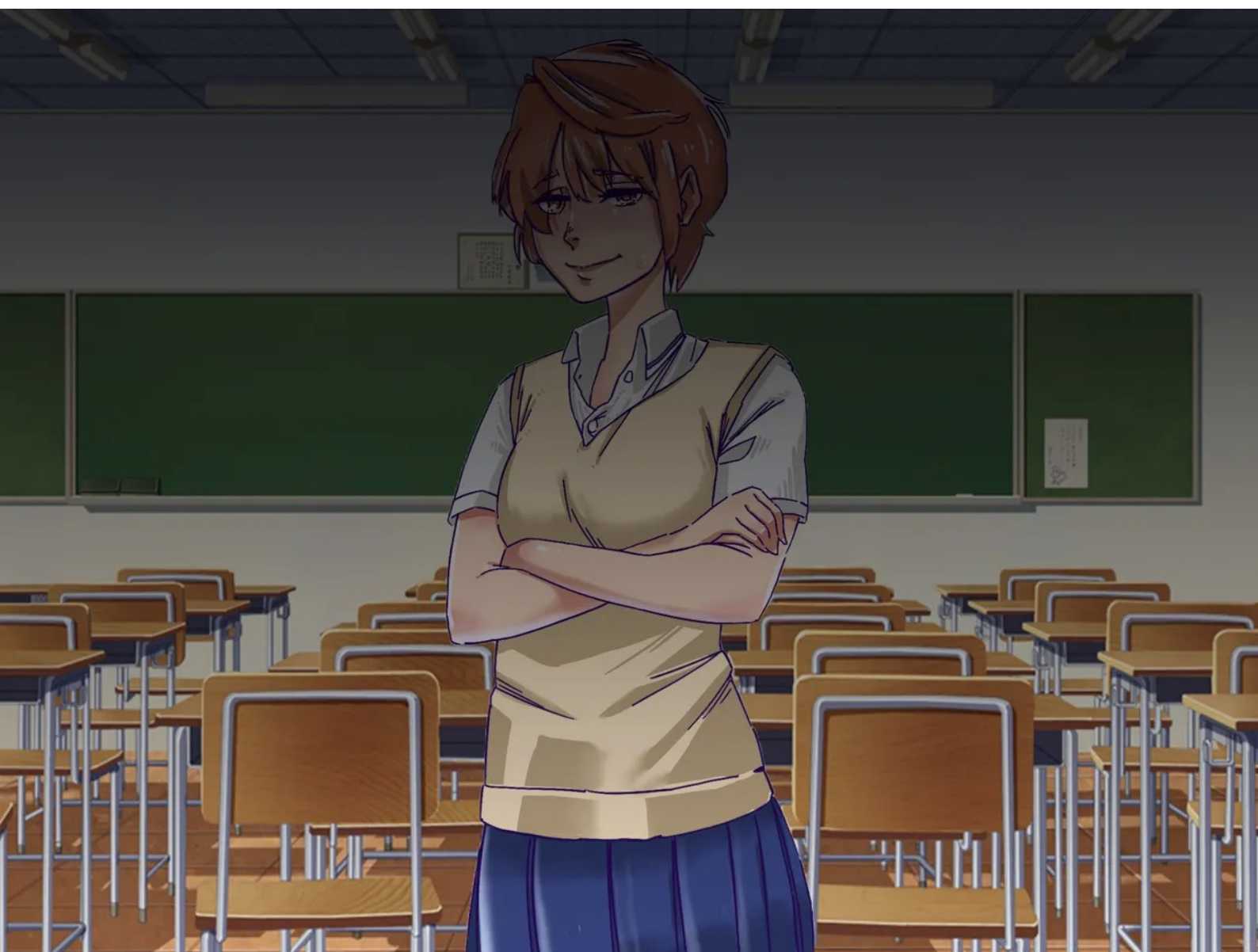
「あ、はい」



「新入生の皆さん。驚かせてごめんなさい。
まずはなんで私がこんな救いようのない
バカマゾメスになったのかを
ご説明させていただきます♡」

あれは一年前、私がまだ
陸上一筋で無意味に汗を流していた
ガキ処女マスコだった頃の事です……。」





1年前

「不良グループのリーダー、金剛ってのはあんたか？」

放課後、不良グループが集まる教室に
単身乗り込んだねん。
「は？なんだてめえ」

「私の後輩にちよつかいをかけたそうだね？
あんたらとは生きてる世界が違うの。
あんまり関わってこないでもらえるかな？」



「おれこいつのこと知ってるぜ。」

陸女（リクジヨ）のエースで女子たちから

【王子様】って呼ばれてる佳苗れんだ」

「おまえ度胸あるな。でも残念だったな。」

お前の後輩は俺のセフレになったんだよ。

向こうも合意の上だぜ。ほら。これが証拠」



そういうと不良のリーダー金剛（こんごう）は
スマホの画面に映された動画を見せてきた。



安城なるみ

女子陸上部 安城なるみ

勝ち気な性格で身体能力が高く、
陸女の次期エースと言われている。

「で？この私をこんなところに呼び出して、
不良君達がなんのようかな？」

「おう、ちよつと強気な女を

泣かせたい気分だな。

てめえを俺のセフレにしようと思ってる」



安城なるみ

「はあ？頭大丈夫ww？そんなの犯罪じゃん。
警察に突き出して一発で
あんたたち人生終了だよ？」

「俺たちは警察の厄介になるのなんて
しょっちゅうだからな
いいときや言えよ。まあ俺たちに何されたかを
ちゃんと警察に伝えられるならな・・・」

「おら！しつかり股開けや！」

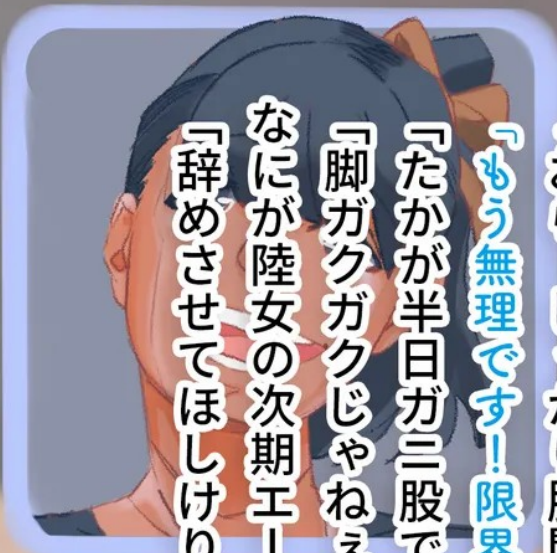
「もう無理です！限界・・・限界ですうううう」

「たかが半日ガニ股で立ってるだけだろうが！」

「脚ガクガクじゃねえかWWW」

「なにが陸女の次期エースだWWW」

「辞めさせてほしけりやもっと笑って宣言しろ！」



「くうう、不良グループのみなさまあ

私のぬれぬれおまんこをどうぞ御覧ください！

いまからこのなんの価値もないカスまんこ処女を

不良様方に奪っていただきます

忘れられない無様な思い出作らせてくださあい」



「まだ声がちいせえな。やりなおしだ！」

「そ、そんなああもう無理ですう。」

「恥ずかしすぎて死んじやいます

警察には言いませんから、

もう許してくださいあいいい」

「なら一発で終われるように気合い入れろ！」

「ひざいいいい」





「これのどこが合意なんだ!?!
いますぐ彼女の動画をすべて消せ!」
「ええ、せっかく撮ったのにな。
なら交換条件といこうじゃないか」

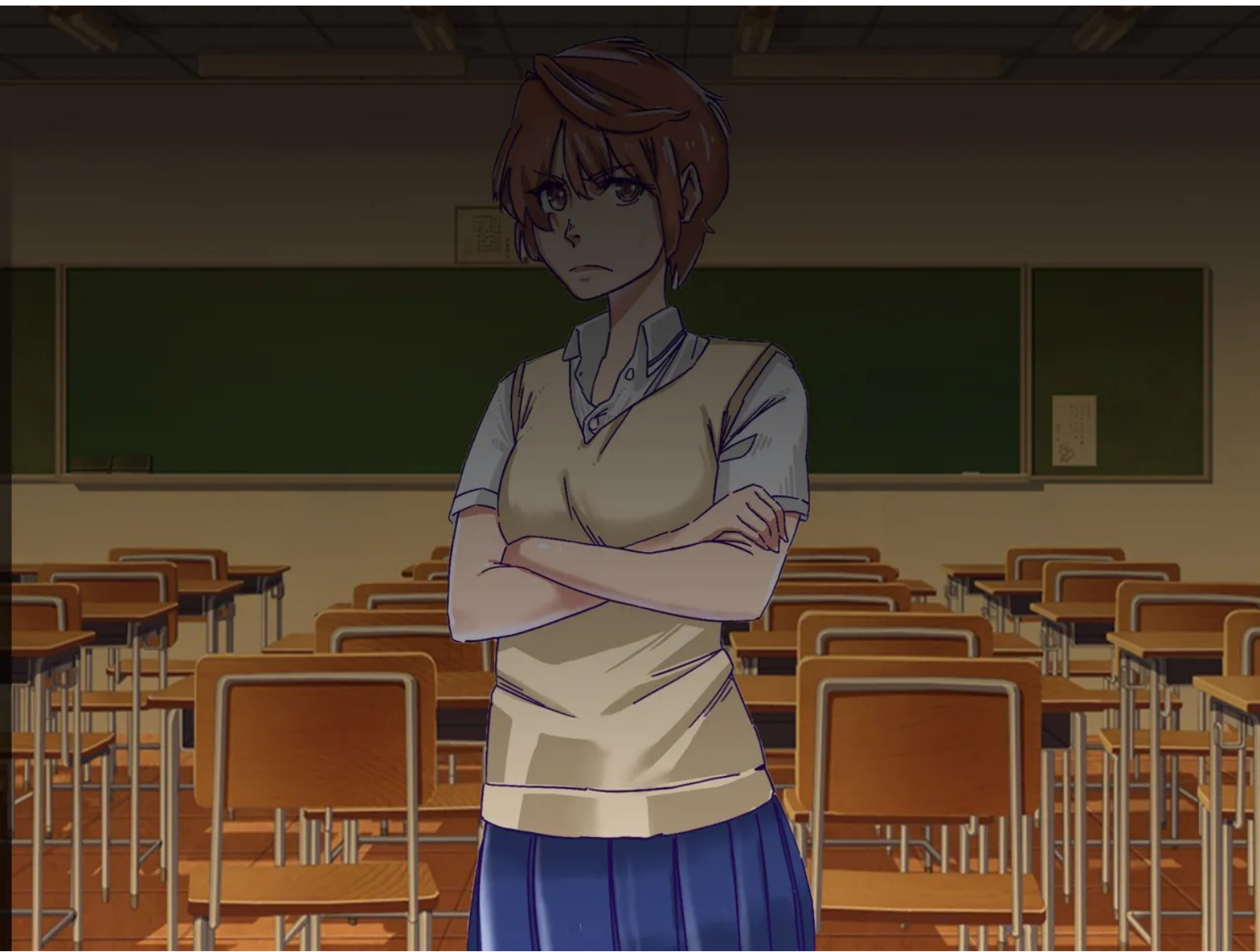


「なに?」
「この動画を消す代わりに。
おめえがこれと同じポーズしろ」
「な、私が?!」

「そしたら写真も動画消すし、
後輩の安城にも近づかねえよ」
「・・・わかった」
「ん？えらく物分りが良いな」
「後輩のためだ。その代わり、
約束は必ず守れよ・・・！」

「わかったわかったw」





「く。。。これでいいか？」
「いいぜ。それじゃあさつき教えた
セリフを言ってくれ」



「本当にそれを言ったら後輩には
関わらないんだな」
「ああ」

「金剛様。そして不良グループのみなさまあ

私佳苗れん10歳の未使用

ぬれぬれマンコたあっぷりみてくれえ

10年間守り抜いてきた処女だが

いまから不良グループ様方のお遊びで

喪失させていただく！いまからとっても楽しみだ



はじめてなのに興奮しすぎて愛液がとまらない

今日の事は一生忘れられない思い出になるだろう。

さいっこうに無様で惨めで将来の旦那さんに

絶対言えないくらいに恥ずかしい

処女喪失体験させてください！」

「。。。おまえなかなかノリがいいな。

安城はこれ言わせるのに二〜三十回
リテイクとったんだぜ」

「最初は泣きじゃくって日本語
喋れてなかったからなあ」



「10回目くらいで吹っ切れたけど、

それからずっとやらせたんだよなｗｗ」

「もう許してって泣きながら

宣言してるやつもなかなか良かったわｗｗ」

「く・・・お前ら、そんなことを」

「お前実はこういうの」

「嫌いじゃないんじゃないだろ」



「そんなわけ無いだろ!!」

「こんな下劣な行為、一回で終わらせたいだけだ」

「ふーん。じゃあここで小便しろや」

「え。。。？」

唐突な指示に驚くれん

「後輩と同じことしてたんじゃ

つまらねえからよお前先輩だろ。

なら後輩よりもハードル高くしねえとな」

「そんな。。。人前でおしっこなんて、

出ない！出せるわけ無いだろ！」

「普通はそうだよな。でもお前はやるんだよ。

まともな人間じゃ到底できない

変態行為をお前はいまからここで」

「できないならいいぜ。安城にやらすからよ

水飲ませて腹パンすりゃあ

無理にでも小便撒き散らすだろ」

「く。。。貴様ら」



「で、やるの？やらないの？」

「や、やる。でも本当に出ないんだ」

「膀胱に集中しろ！できなくてもやるんだよ！」

「死ぬ気で出せ。出してる間・・・そうだな。」

思いつく限りのエロいオナニー方法を言い続ける」



「く・・・」

「俺たちを退屈させるな。やれ！」

「うう・・・自分の机の角でする・・・」

「ちゃんと言え。なるべく下品にだ」

「自分の机に、おまんここすりつけて
オナニー・・・」

「教卓に上がって、クラス全員におまんこを
みせつけながらオナニー・・・」

しばらく自分が思いつくだけのオナニーの方法を
言わされた後、れんが小刻みに震えだした



「あ。で。でる・・・おしっこでる」

「出るときにもう一回笑顔でエロ宣言しろ」

「あ、く・・・わか・・・」

「はあああ」

ジヨボジヨボジヨボジヨボ

「私佳苗れん」○歳の未使用ぬれぬれマンコ

たあっぶりみでくれえ

そしてそこからあふれる、

本来見せちゃいけない女子○生のおしっこも

しっかりみてえ・・・



これから先おとなになっても

一人思い出して恥ずかしくなっちゃう

おしっこの思い出をさっそく一つ不良様に

作っていただきましたあ・・・」

全て出し切るとれんはブルツと身震いした
床一面にれんのおしっここの後が広がってく。



「出し終わったらしっかり掃除しとけよ。
小便漏らし」
「はい。。。」



「まあいい。じゃあさつきの
宣言通りガキ処女をもらおうぜ」
「くう・・・」

「おら、自分からねだれよ。
今度はそうだなあ自分の駄目なところ探して
ひたすら謝れ。謝罪しろ」



「謝罪？なんで私がそんなことを」

「安城がどうなってもいいのか？お前はバカ
みたいに俺らのその場の気まぐれを必死こいて
実行すりゃいいんだよ」

「くう・・・生意気な態度をとって

申し訳ありません」



「他には？なんだこのパンツは。」

大人ぶってんじゃないか？」

「たしかに、処女のくせにいきがりすぎだ。謝罪」

「大人ぶったパンツで申し訳ありません」

「てめえが履いて良いのは色気のない

白パンツだけだ。わかったか」

「わかった・・・今度から色気のない

白パンツだけ履きます」

「よし、じゃあ今履いてるこれはもういらねえな！」



「きゃあー!!! おまえら、いい加減に……!!」

「後輩にも同じことするぞ?」

「く……申し訳ございません」

「で、このパンツはどうするんだよ」

「……ガキの私にはもう必要ありませんから捨てていただいで大丈夫です」

それを聞くと不良はパンツを教室の隅にあるゴミ箱に捨てた



「こんなところに捨てたら他のヤツに見つかっちゃうかもな」

「誰かのおかずにされちまうかもよ」

「おい、それが原因で将来このクラスから

下着泥棒が出たらどうすんだよWW」

「ちゃんと謝っとけよWW」

「クラスの真面目な子たちの性癖を歪ませてしまってますいません・・・」



「・・・おい、無駄話ばかりしてないで、

犯すならさっさと犯せ」

「あ？なんだと」

「私はお前らみたいに暇じゃないんだ。

早く帰って自主練がしたい」

「ああそうかい。じゃあ望み通りやってやるよ」



「え？・・・おぎょおおおお」

「バカがおら。先にアナルだ」

「いぎい・・・いきなり・・・」

「ふざけた事抜かしやがつて・・・」

てめえのいまの立場をしっかりと覚えとけよ。

気分次第でいつでもてめえのアナルぶっ壊して

一生クソ垂れ流しの不良品にできるんだからな！」

「い、いやああ！そんな人生いやだ！」

「ならアナルで媚びろ！アナル媚謝罪だ！やれ！」



「ううわ、やめろおおやめてくれえ！」

私のアナルは不良様のお気持ち一つでどうとでもなる
無価値おもちやだ！いままでは自分のアナルを
過大評価しておりました
大変申し訳ありま、あう。。。ありません。。。！
でも、こんなお遊びで一生うんち垂れ流し
アナルなんて嫌だ！！

ごめんなさい。勘弁してください！んぐっ
私のアナルは不良様にお捧げしますから
どうかぶっ壊しアナルは勘弁・・・
してくださいいいい



「まだ遊びがいありそうだからな
アナル破壊は勘弁してやる。」
れんのアナルは突然のピストンにより
ぽっかりと空いてしまった。

しかし、なんとか不良たちの気まぐれで
アナル破壊はまぬがれたようだ。



「その代わり次はこっちだ！」

「んほおっ……しよ、

しよんな初体験がこんなあっけないなんて」

「初マンコ気持ちいいか！」

「い、いだい……でも、これで安城を
救えるなら耐えてみせるう！」



「ついでだからアナル処女もここで卒業させてやるよ」

「んiiiiiiiiiii。そんな適当にいいなにこれええええあへえええええ」

「よかったな！レイプで

処女なくしたその日にケツ処女もすてるなんて

宣言通り無様で惨めな初体験になったろ！」



「くううう！さいつこうの初体験させて
いただいてますううう」

「ほらいけ！イキながら謝罪だ！
イクときはしっかり宣言してイケよ」

「ひいひいごめんなさい。

ごめんなざあいいイク！ずびばゼイク！

イクイクイク！！！！ごめんなざイクううううう」



「おら、謝罪」

「んお・・・わ、私の無価値カスマンコとおもちゃアナルの処女喪失で皆様の貴重なお時間を取らせてしまい申し訳ありませんでした」

「今後は俺たちの好きな時、好きな場所でいつでも二穴はめれるように24時間準備しておけよ」

「今後？」

「あたりまえだろ。」

「お前が後輩の代わりにセフレになるんだろが！」

「そんな！これで終わりだって！」



「いいんだぜ？代わりに後輩がセフレに戻るだけだからな」

「おら、わかったら奴隷・・・いやいや、セフレ宣言しろ」

「お前たち・・・覚えてろよ・・・
これからは不良グループ様専用の肉便器として
忠誠をお誓いいたします」

私はみなさま専用の忠誠マンコと
従順アナルでございます」

「よし、今日はもうかえって良いぞ」





それから毎日不良たちに呼び出され、マンコと
アナルを差し出すれん。しかしその数日後。

旧校舎の男子トイレにれんを呼び出した不良たちは

いつもとはどこか様子が違っていた。

「なんで今日呼ばれたかわかるか？」

「はい。私の下僕マンコとアナルで

皆様に気持ちよくなつて頂くためです」

「ちがう。これを見る」

金剛がある画像を見せるとれんはたちまち青ざめた。



「あ！」

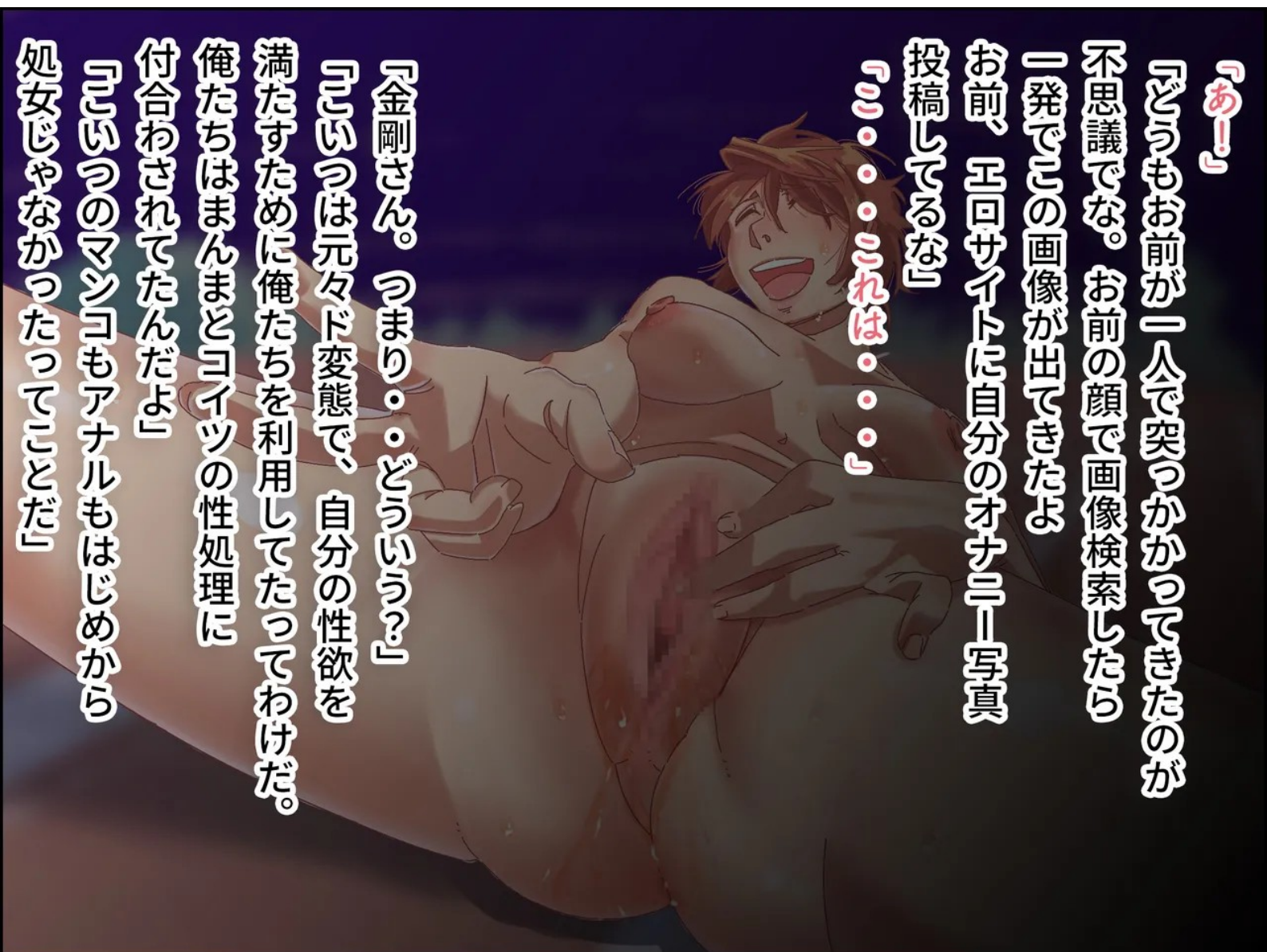
「どうもお前が一人で突つかかっていたのが不思議でな。お前の顔で画像検索したら一発でこの画像が出てきたよ
お前、エロサイトに自分のオナニー写真投稿してるな」

「……………これは……………」

「金剛さん。つまり……………どういう？」

「こいつは元々ト変態で、自分の性欲を満たすために俺たちを利用してたってわけだ。俺たちはまんまとコイツの性処理に付合わされてたんだよ」

「こいつのマンコもアナルもはじめから処女じゃなかったってことだ」



「お前！騙しやがったのか！」

「すいません！そんなつもりじゃないです！」

おちんぽは！おちんぽは初めてでした！

ただいろんな玩具を入れて遊んでるうちに

処女膜自分で破っちゃって……

恥ずかしくて言えなかったんですう……！」

「どうりでノリが良いはずだぜ。

嫌がるふりして本当は期待してたんだからな」

「それは……申し訳ありませんでした……！」



「。。。。れん。おれは最高に不愉快だぜ」

「はい。。。。すみません」

「どうせこれがバレるのも想定内だったんだろ？」

「そ。。。。そんなことは。。。。」

「はっきりいえや。。。。!!」

「ひい!!!!すみません!すみません!!」

ネットにはいつも顔を隠して投稿しているんですが

金剛様にバレたらどんなことを

してくださるだろうって想像してしまっで。。。

顔無修正の画像を投稿してしまいました!!」



「とんでもないド変態だな」

「おまえ学校では王子様キャラで

通ってるんじゃないのかよ」

「はい。学校でみんなにチヤホヤされれば
されるほど、変態マゾ豚になった時の
興奮が倍增するんです」



「皆さんを騙そうと思ったんじゃないんです!!
それに、男の人とエッチしたのは皆様が初めてです
本当です!今まではこっそり買った
パイプやローターで我慢してきました!」

「皆様の性処理肉便器になれて本当に良かったと
思ってるんです!だから捨てないでください!
お願いします!!」



「……。おい、靴なめろ」

「……。はい」ペチャ……。ペチャ

「俺たちを騙していたことに対してはこれから罰を与えるとして……」

「ふあい……。」

「お前がその気ならこっちも気兼ねなく

お前をおもちゃにできる訳だ。悪い話じゃねえ

だからしばらくは俺たちがお前のこと飼ってやるよ」

「ふありふあるーございふあふ

（ありがとうございます）」

「その代わり俺たちの玩具になるのがどれだけ
エグいかをしっかりとわからせてやらねえとな」

「ふえ？」



バチンッ!

「ふざいー!!」

「まずは尻百叩きだ。しつかり反省しろよ」
そういうと不良たちは順番にれんのお尻に思い切り平手打ちしていった

バチン!

「ふあざー!!」

バチン!バチン!

「ふぶっ」

バチン!バチン!バチン!

「ふがああ!!」



見る間にれんの尻は赤く腫れ上がり
2〜30回目で早くも泣き出してしまっ

「い、いいいい勘弁！勘弁してください！！
お尻なくなつてしましますうう」

「おい、靴はなめ続けろよ」

「あ……ふいふあへむ（すいません）」

バチン！

「ふびいいいい」

「おい！靴噛むな！！お前のケツより
俺の靴のほうが格が上だろうが！」

「ひい・ひい！！」

「これに耐えたらペットにしてやる。

いいか。次『やめてほしい』って言ったら。

本当にやめちゃうぞ」

れんは金剛を見上げて、泣きながら首を縦に振った。



バチン！

「ふぁぎー！！」

バチン！

「ふぶっ」

バチン！バチン！バチン！バチン！バチン！バチン！

「ふがああー！」



尻を叩かれても決して金剛の靴には

歯を立てないれん。普通なら痛みでつい歯を

食いしばってしまうものだが無意識の防御反応すら

捻じ曲げられ、自分が靴以下の存在だと

頭に叩き込まれてしまったようだ。

100叩き終える頃にはれんも
顔は涙と鼻水とよだれでぐちゃぐちゃだった
「よし、いいだろう。靴なめもやめていいぞ」
「.....は.....はひい.....」
「しっかり反省したか？」

「は、反省いたしました!!!」
「よし。クソマゾらしく下品に謝罪しろ。
すこしでも俺たちの気に障ったら
また尻百叩きだぞ」

「ひひひひひひ!!!ああ.....あう.....あああ」



「どうした？」

「ごめんなさい・・・ひい・・・ごめんなさい。

私が悪かったですすいません。すいません」

「んー。それだとなんか、

俺達が悪者みたいじゃね？」

「そうだなあ。俺たちはお前に

反省させるためにやったのになあ」

「そ、そうでした！すみま・・・すみません！

ありがとうございます！ありがとうございます！

しっかり反省させていただきました！

皆様のお手を疲れさせて申し訳ございませんでした！

もう二度と皆様を騙しません！」

「よし。もう嘘つくなよw」

「はい！ああ、なんて優しい方々なんですか！

ありがとうございます！ありがとうございます！」

尻を叩かれてお礼を叫ぶれん。



「おいWケツの穴閉めるよWW内蔵まで見てんぞW」
「あつ、申し訳ございません・・・嬉しすぎて
アナル緩んでしまいました・・・」

「仕方ねえ穴だな」

そういうと不良たちはズボンを下ろし、
れんのぽっかりアナルに向かって小便をだした

「あああ、おしっこが、おしっこが私のアナルに」

「便所なんだから文句ねえよな？」

「はひい！文句ございません！お気の済むまで
私のアナルをお便所としてお使いくださいませー！！」





深夜のグラウンド。日中はここで女子陸上部が
全国大会へ向けて練習をしている場所である。

「金剛様。今日は何を？」

「お前が前にネットに上げてた写真あつたる？」

あれを再現しようと思ってな」

「それもおまえがいつも練習してるこの場所だ」

「そ、そんな事したら、練習中そのことを思い出して、
オマンコがビショビショになってしまいます……」

「なるから、なんだ？」

「ビショビショになつて……」

最高に興奮してしまいます……」

「どこが良いかなあ」

「更衣室の真ん前とか」

「グラウンドのと真ん中はどうだ？」

「そうだな……よし。れん。」

お前が一番興奮するところはどこだ？」

「え？」

「そこで撮らせてやる。」

「ああ……そんな……」

「どこだ？」

「。。。一番、集中力を使う場所。」

グラウンドのスタート地点でオナニー

させられちゃったら。。。」

「そのことを思い出してスタート切る度に

エロエロな気分になっちゃいます。。。」

「そうしたらもう今後一生、

まともなスタートは切れなくなると思います」

「。。。そうか」

「はあ……。あああ！！！！佳苗れん10歳
女子陸上部主将1回目アクメします！」

「もつと声出せ！！」

「ああ、だめえばれちゃう。だれかにバレちゃう」
「バレたらどうするんだ？」

「あああ、私のオマシコ誘惑でえ……。
魅了しちゃいますううう」

グラインドで大声でアクメ宣言をさせられるれん。
バレたら即停学ものだが、見つかったら
マシコとアナルを使ってどうにか
見逃してもらえと命じられている。

「おい！こつちも手抜くなよ！写真ではもつと
奥まで指入れてたろうが！」



「ごめんなさいいい。でもだめなお
いき過ぎちゃう」

「イツでも手止めるな。イキ続ける」

「ひい・ひい！佳苗れん1〇歳

女子陸上部主将2回目アクメします！」

「ピースも忘れるなよ。

てめえが余裕ぶってる姿なんかみたくねえんだよ」

「息切らしてもオナニー止めるな！」

「はあ・・・はあ部活の練習よりキツイです！」

「ゲツも忘れるな！自分で揉みしだけ！」

「こんなの、駄目・・駄目になるうううもう一人で

オナニーしてた頃には戻れなくなっちゃううう」

「てめえみたいなド変態がもう後戻りできる

わけねえだろ！おらイケ！」

「うぎいいいい佳苗れん1〇歳

女子陸上部主将3回目アクメします！」



何度アクメしても終わらせてもらえず、
れんはひたすら、金剛たちの気が済むまで
オナニーを続けさせられた。次第に金剛たちは
れんに目をくれず仲間同士で話し込んでいく。
しかしそんなときでもれんは手を休めることは
許されず黙々とイキ、絶叫宣言を続けるのだった。

「佳苗れん10歳女子陸上部主将10回目アクメします！」
「佳苗れん10歳女子陸上部主将11回目アクメします！」
「佳苗れん10歳女子陸上部主将12回目アクメします！」
「佳苗れん10歳女子陸上部主将13・・・14・・・
15回目アクメします！」

「佳苗れん10歳女子陸上部主将1ああもうだめえええわ
かにゃい・・・なんかいいったかわかにゃいよおお」



「よし、れん。【待て】だ。イクの我慢しろ」

「はへ？」

「オナニ」は続ける。でもイクのは我慢だ」

「そ、そんなあ・・・」

んあっはイキそう・・・イキそうです」

「だめだ。我慢だ」

「んくううううう・・・！！我慢！！！！」

我慢！！！！我慢！！！！」

「おいおい、10歳がしている

顔じゃないだろそれwwwどんだけ必死なんだよ」

「うきゅうううう・・・イッちゃいます・・・」

だめ・・・だめ・・・」

「イクな！我慢しろ！絶対イクなよ！」

「ふっ・・・ふっ・・・」

まるで犬のように待てを躡けられ従順に従うれん。

「よし、れん。俺のちんぽでイケ!」

「あへえ・・・あへえええええええ
ひやなえれん・・・じゅう〇しゃいいいい
じよひりくひょうふううう」

「なんて言ってるかわかんねえよw」

「しゅ、しゅごいいいい飛んでるみたいいいい

あはああああひぐううイグううううああああ♡」

我慢していた絶頂を迎えとうとうぶっ飛んでしまっ

れん。もはや王子様キャラは見る影もなく、

獣のように叫びながら絶頂するのであった。



その後も代わる代わる不良のちんぽに
マンコもアナルも侵され続けるれん。

「あああくりうううおちんぽ！おちんぽおおお」
「おい、おちんぽ様だろうが。」

ちんぽにもちゃんと敬語使えマゾ便器犬！」

「はあああ・・・そうでした。失礼いたしました。」

おちんぽ様。私のマゾマンコを気持ちよくして
いただいてありがとうございます・・・」

「ちんぽに感謝しながらイケ」

「ありがとうございますおちんぽ様！」

ああおちんぽ様ばんざい！

おちんぽさまああああイクー！！

おちんぽ様いくうううううう♡♡」



「しかし金剛さん。なんでスタート地点じゃなくて、ゴール地点でれんにオナニーさせたんです？」

「ああ、あいつはまだ陸女で活躍させたいからな。」

「ゴールだったら。ここに向かってエロパワーでもっと早く走れるだろ」

「なるほどお・・・」

「じゃあれん。俺たちはもう帰るけど、

お前はここであとマンコとアナル10回ずつ
アクメってから帰れよ」

「はひい。わかりまし・・・」

佳苗れん10歳女子陸上部主将35回目
アクメします！」

れんの絶頂宣言を聞きながら不良グループ
は帰っていった。





時間は戻って

「新入生のみんな。しっかり聞いてくれたかな？
私の話を聞いておちんぽ様を勃起させちゃった
生徒がいたら、いつでも、私のところに来てくれ
1年間でみっちり鍛えたエロ
ロマンコテクでイかせてやるぞ」

「はいオッケー」

金剛がカメラを止める。



「んじゃあこのまま学校の校舎紹介も撮っちまうか」

「あ、はい」

「ただ撮るだけじゃ詰まんねえからな。」

これも、王子様バージョンと
メスマゾバージョンで撮るぞ。

「お前がいままで校舎でやってきた変態エピソードも
全部話してもらうから。覚悟しとけよ」

「.....はい♡」



次回予告

プールサイドで、保健室で
ありとあらゆるところでセックスを舐けられ、
学校のどこにいても発情してしまう
メス犬に調教されてしまった佳苗れんの
調教エピソードを公開



すました王子様キャラバージョンと
完全に堕ちたメス犬バージョンの差分あり
そして後輩、安城なるみのエロエロ
アナルレッスンも♡
ご期待ください！

